

## 2008年度 卒業論文講評

2009年2月 小関 隆志

### 清水つづら「指定管理者制度とNPOの関わりについて」

指定管理者制度がスタートして3年。発足当初は賛否両論さまざまな議論が起きましたが、そろそろ、制度の良い面・悪い面の実態が見えてきた時期に来ているのではないのでしょうか。指定管理者のなかには、採算に合わないとして契約途中で事業を放棄したり、廃業したりする失敗例も現れるようになりました。

指定管理者制度とNPOとの関係についても、さまざまな議論がありました。NPOの事業拡大のチャンスと捉える向きもあれば、NPOが行政に絡め取られてしまうと警戒する主張もありましたが、全体ではまだまだNPOが指定管理者になるケースが少ないため、検証にはもう少し時間を要するようです。こうした時期に、指定管理者制度とNPOの関係をテーマに取り上げることは、社会的な関心の高い問題でもあり、時宜にかなっていると思います。

清水さんは普段自分がスポーツで使用している運動場が指定管理者によって運営されていることを知り、この問題に関心を持ったようです。

論文のなかでは、NPO法人による指定管理者と、自治体の外郭団体（財団法人）による指定管理者（ともにスポーツ施設の運営）を取り上げました。

指定管理者制度の運営実態を詳しく明らかにして、NPO法人と外郭団体の比較を深く行えると、もっと良かったのではないかと思います。

清水さんには今後も、卒業論文を一つの契機として、NPOの経営や指定管理者制度の問題について、関心を持ち続けていってほしいと願っています。